くらしとごみ

第4回　世にあふれるペットボトル

金子　泰純

レジ袋と同じく散乱ごみとして目立つのがペットボトルです。これは自然に分解するのに400年かかるといわれ、海流に乗って遠く他国の海岸に漂着しています。日本ではハングルや中国語表記のものも多く見られますが、日本製も遠く太平洋を漂うのです。

私達にとってペットボトルのない日常を想像することはもはやできないものとなりました。ですが、日本でペットボトルが使用されるようになり40年しかたちません。最初はしょうゆの容器として販売され、500ml以下の小型サイズの自主規制が解かれた1996年からペットボトル生産量は急増し、今では飲料容器の7割以上がペットボトルです。大学の教室で教科書とノートを広げていない学生でも、スマホとペットボトルは忘れないようです。

このペットボトルの使用量をご存知でしょうか。飲料メーカーで構成する全国清涼飲料連合会の調べでは、2016年度のペットボトル販売量は約227億本（清涼飲料用のみ）。一人当たり年間180本、2日に1本の勘定です。自動販売機やコンビニエンスストアで手軽に購入でき、使い捨てができる便利な容器です。近年はごみ減量推進委員会でも委員の目の前にペットボトルのお茶が用意されるのが普通になってしまいました。

ペットボトルはポリエチレンテレフタレート（その頭文字からPET）と呼ばれるプラスチックで作られています。他のプラスチックと分別がしやすく量がまとまることからリサイクルに適しており、2016年度のリサイクル率は約84％です。アルミ缶やスチール缶には及ばないものの高い水準です。しかし、飲料容器の7割を占める圧倒的な存在ですから、リサイクルされない量も30億本を超えます。その数パーセントでもポイ捨てされると大変なことになってしまうのです。そこで、全国清涼飲料連合会では、2030年にはペットボトルを100％回収し、リサイクルと焼却によるエネルギー利用に回すとの目標を掲げ、前向きな姿勢を見せています。この目標が達成されれば、理論上は散乱ごみや海洋汚染の原因とはなりません。しかし、そのことに安心して大量にペットボトルを使い続けることは資源・エネルギーの無駄使いです。ましてや発電効率の低い焼却処理に回してしまえば、元は石油ですからCO_2となって地球温暖化に加担することになります。

「MOTTAINAI」の心を思い起こしてください。普段は水筒を利用し、時々ペットボトルという生活に、皆さんが変えていくことは難しいでしょうか。

（かねこ・ひろずみ　和歌山大学システム工学部 教授／COC＋推進室長）

岸和田商工会議所の会報誌 きしわだ所報への

広告掲載募集のお知らせ

岸和田商工会議所では、会報誌「きしわだ所報」に広告を掲載していただける会員事業所を募集しています。

発行日　毎月10日　発行部数　約1,900部

広告スペース	金額〔税込〕
1／4ページ	￥　4,100円（月額）
1／2ページ	￥　8,200円（月額）
1ページ	￥16,400円（月額）

掲載に関するお問合せは

岸和田商工会議所

〒596-0045 岸和田市別所町3丁目13番26号
TEL.072-439-5023　FAX.072-436-3030